

## DTaPワクチン

(ジフテリア・破傷風・百日咳)

## 知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See [www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)  
多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。  
[www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)をご覧ください。

## 1 なぜワクチン接種が必要ですか？

ジフテリア・破傷風・百日咳は細菌が原因となって引き起こされる重い病気です。ジフテリア・百日咳は人から人へ感染します。破傷風菌は切り傷や傷口から人体へ侵入します。

ジフテリアに感染すると、喉の奥に厚い膜ができます。

- 呼吸困難・麻痺・心不全に進展したり、死に至る場合もあります。

破傷風（開口障害）に感染すると、筋肉がこわばって体全体が痛みます。

- また、あごが動かなくなると、口を開けたり飲み込んだりできなくなる場合もあります。破傷風感染者は、多くて10人中2人が死亡します。

百日咳は咳発作が続き、乳児の飲食や呼吸を困難にします。咳は何週間も続く場合があります。

- また、肺炎・けいれん（ひきつけや欠伸発作）  
・脳障害・死に至る場合もあります。

3種混合ワクチン（DTaP）を接種することで、ジフテリア・破傷風・百日咳の感染が予防できます。DTaPワクチンを接種したほとんどの子供は、幼少期を通じて免疫がつきます。予防接種を中止してしまうと、多くの子供がこれらの病気に感染することになるでしょう。

DTaPは、従来のDTPの安全性をさらに高めたワクチンです。DTPワクチンは現在米国では使用されていません。

## 2 DTaPワクチン接種の対象者と接種時期は？

子供のDTaPワクチン接種は計5回、以下の時期に行われます：

- 生後2カ月
- 4カ月
- 6カ月
- 15-18カ月
- 4-6歳

DTaPは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

## 3 DTaPワクチン接種を受けられない、または待たなければいけない子供

- 風邪などの軽い病気にかかっている場合、予防接種を受けることができます。中等症や重症の病気にかかっている場合は、通常回復を待ってからDTaPワクチンの予防接種を受けなければなりません。
- DTaPワクチン接種後、生死に関わるアレルギー反応があった場合には、以降の接種を中止せねばなりません。
- DTaPワクチン接種後7日以内に、脳および神経系の病気にかかった場合には、以降の接種を中止せねばなりません。
- 次のような場合、医師に連絡してください：
  - DTaPワクチン接種後、発作があったり気絶した。
  - DTaPワクチン接種後、3時間以上泣き止まなかった。
  - DTaPワクチン接種後、105°F以上の発熱があった。

詳しくは医師にお尋ねください。これらの症状がみられた場合、百日咳のワクチン接種を中止せねばならない場合がありますが、百日咳を除いた2種混合ワクチン（DT）の接種が可能な場合があります。

## 4 年長の子供および成人

DTaPは7歳以上の子供、青年、成人に対しては認可されていません。

しかし、これらの人々の予防も必要です。TdapはDTaPに類似したワクチンです。11-64歳までの人々は、Tdapワクチンの接種を1度受けることが勧められています。Tdワクチンは、破傷風とジフテリアの感染を防ぎますが、百日咳は予防されません。10年ごとの接種が推奨されています。それぞれのワクチンについて、ワクチン情報文書が作成されています。



## 5 DTaPワクチン接種のリスクは？

DTaPワクチンの接種に比べれば、ジフテリア・破傷風・百日咳に感染する方がはるかに危険です。

しかし、他の医療行為と同じく、強いアレルギー反応など、ワクチン接種が深刻な問題を引き起こす場合があります。DTaPワクチン接種によって深刻な危害または死に至るリスクは、非常に低くなっています。

### (よく見られる) 軽度の問題

- 発熱 (多くて4人中1人)
- 接種部分が赤くなったり腫れたりする (多くて4人中1人)
- 接種部分が痛んだり敏感になる (多くて4人中1人)

これらの症状は、最初の数回より4回目・5回目のDTaPワクチン接種後によく見られます。4回目・5回目のDTaPワクチン接種後に、注射を受けた腕や脚全体の腫れが1-7日間続く場合があります (多くて30人中1人)。

### その他の軽度の問題は次のようなものがあります：

- むずがる (多くて3人中1人)
- 疲労感・食欲不振 (多くて10人中1人)
- おう吐 (多くて50人中1人)

これらの症状は、予防接種後、通常1-3日後に発生します。

### 中程度の問題 (まれ)

- けいれん (ひきつけや欠伸発作) (多くて14,000人中1人)
- 3時間以上泣き止まない (多くて1,000人中1人)
- 105°Fを超える高熱 (多くて16,000人中1人)

### 重度の問題 (大変まれ)

- 強いアレルギー反応 (100万回の接種で1例以下)
- DTaPワクチン接種後に、次のような重度の症状が報告されています。これらには以下の症状が含まれます：
  - 長期間続く発作・昏睡・意識混濁
  - 終身の脳障害

非常にまれな例のため、ワクチン接種が原因であると断定することが困難です。

過去にけいれんを起こしたことがある子供は、発熱を抑えることが特に重要です。家族の中でけいれんを起こしたことがある人がいるかどうか重要です。発熱と痛みを和らげるには、アスピリンの入っていない痛み止めを注射時に与え、その後24時間は薬の箱に書かれた指示に従ってください。

## 6 重大な反応があった場合には？

### どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応、高熱、行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応の症状としては、蕁麻疹・顔面と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後数分から数時間後に現れます。

### 何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。
- その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。医師が報告する場合がありますが、VAERSのウェブサイト [www.vaers.hhs.gov](http://www.vaers.hhs.gov) で、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

## 7 全米予防接種被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイト [www.hrsa.gov/vaccinecompensation](http://www.hrsa.gov/vaccinecompensation) でプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

## 8 もっと情報が必要な場合は？

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
  - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
  - CDCのウェブサイト [www.cdc.gov/vaccines](http://www.cdc.gov/vaccines) をご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese  
**DTaP Vaccine**

5/17/2007

42 U.S.C. § 300aa-26

Office Use Only



Translation provided by the Oregon Health Authority